

## 「地域の論点」 論点 3

### 商店街の復興による長野市の地域活性

長野県長野高等学校

伊藤 結

#### はじめに

長野高校では、令和元年 4 月より文部科学省から「地域との協働による高等学校教育改革推進事業校（グローバル型）」に指定されています。その中で、「長野のグローバル戦略を探る（1 学年）」「SDGs から見た長野のグローバル戦略（2 学年）」という授業を総合的な学習の一環として実施しています。この取組では、私たち生徒が研究テーマごとグループを作り、県内の企業・団体や行政機関を訪問するフィールドワークを実施し、より研究を深めています。

私は 1 年生の時に「軽井沢町と長野市の比較」をテーマにグループ研究を行い、軽井沢町の特色である商業活動としての観光業について長野市との比較を行いました。そして、2 年生である今年度は、昨年度のグループ研究をもとに自身でテーマを決め個人研究を進めてきました。

#### 1 要旨 (Summary)

皆さんは自分の地域が活性化していると思いますか。今地方では過疎化や少子高齢化が進み、廃れてしまっているという印象を受けることも多いのではないのでしょうか。地域活性化を目指した研究をする中で、私は身近な「商店街」に注目し、地方の商店街を盛り上げることで活性化につなげたいと考え、フィールドワークを通して商店街について学びました。その結果、商店街衰退の原因や抱える課題に加え、商店街ならではの良さや取り組んでいるイベントなどプラス面を見つけることができました。そこで、商店街を復興させるために必要なのは、情報発信の工夫なのではないかと仮説を立て、プロジェクト発表会を通じて商店街の告知活動を始めました。

#### 2 序論 (Introduction)

##### (1) 研究背景

①長野市周辺のエリアで普段生活をする中で、地域としての活動や活発さをあまり感じないことを受け、長野市の地域活性をテーマに研究を開始。課題を感じる場所に挙げられる一つとして、長野駅周辺の商店街があり、そこに注目して地域活性を目指す。

②長野市において、一番栄えているのは長野駅前だといえるが、長野駅前から一步出た長野駅周辺は人通りもそれほど多くなく、活性化しているとは言い難い。そこに位置する商店街の一つに南石堂町商店街がある。南石堂町商店街へフィールドワークに行くにあたり、商

店街復興のための課題として二つの仮説を立てた。

- 1) 近郊住民にとって魅力的なイベントが行われていない。
- 2) 店舗情報やイベントの告知などの情報発信がうまくなされていない。

仮説の2)において私は、去年行った軽井沢町役場へのフィールドワークを通じて学んだことを参考としている。「地域活性を目指すためには、新しい活動を取り入れることも重要だが、今ある活動に地域住民が参加し、住民の意見交換の場となるコミュニティを増やすことが低コスト低労働で可能な活動の第一歩となる」(軽井沢町役場 中山様)そこで課題となるのが、どのようにして活動を周知させ、参加者を募るかということであり、この仮説を加えた。

③先行研究で、低コストで実現可能な取り組みとして「100円商店街」や「バル」「まちゼミ」が商店街活性の三種の神器と注目を集めていることを知る。しかしこのコロナ禍で行うのは難しいと予想されるため、やはり情報発信面を中心に研究を進めるべきと判断。

## (2)研究目的

この研究を通じて長野駅周辺商店街が栄え、長野市が活性化した場合、観光客や他地域からの移住者の増加、若者の流出の減少などが見込め、今までにない交流や経験が望めるほか、過疎化や少子高齢化社会の長野県の現状を克服することにもつながると考えられる。

また、地域としての活動が増え、意見交換の場となるコミュニティが増えることはもちろん地域住民や私たち高校生の暮らしやすさにつながる。

## 3 研究手法 (Methods)

### (1) フィールドワーク I

南石堂町商店街にフィールドワークに行き、事務局の宮下様にお話をお聞きする。仮説1)、2)の内容を中心にインタビューし、南石堂町商店街の現状をとらえ、解決策を考察する。

### (2) フィールドワーク II

一回目のフィールドワークの時に伺うことができなかった、南石堂町商店街ならではの良さや魅力についてインタビュー。実際に商店街にある店舗を回り、商店街についての知識を学ぶ。

## 4 結果・考察(Results & Discussion)

\*フィールドワークなどの研究方法ごとに結果・考察を記す。

### (1) フィールドワーク I

仮説1)、2)をふまえ商店街の現状を学ぶ。

### 1. 各地商店街が廃れてしまう原因について

商店街は設立当初、近郊住民のための食材や日用品の提供の場として発展。

しかし、大型スーパーが登場、自家用車が大量化

⇒遠出が可能になり、人々の日用品の供給源は大型スーパーに。

反対に商店街は車で来るようにできていない。(駐車場がないなど)

⇒客足の減少や客層の高齢化

◎商店街を取り巻く環境の変化によって、各地の商店街は廃れてしまった。

### 2. 現在の南石堂町が抱える課題

リピーターの減少と高齢化、店舗経営者の高齢化および継承者問題、空き家対策、など

⇒南石堂町商店街振興組合は、先手を打って昭和46年に駐車場を設立。よって駐車場問題は解決。

### 3. 南石堂町が行っているイベント

・NAGANO 善光寺よさこい (周辺5商店街共同実施)

・蟻の市 (長野市びんずる祭り前日・前々日開催)

・e-sports 大会

・「地域の論点」発行

⇒仮説1) 近郊住民にとって魅力的なイベントが行われていないにおいて、南石堂町では魅力的なイベントは行われていると判断できたため、仮説2) に焦点を切り替える。

4. 商店街は振興組合が各店舗から集めた徴収金で活動をやりくりするため、企業とは違い、情報発信のための資金を作るのが難しい。

⇒仮説2) 店舗情報やイベントの告知がうまくなされていないことが商店街の課題に一致。

◎よって、商店街の情報発信に焦点を当て、南石堂町商店街の活性を目指す。

### イベントの告知方法

#### (2) フィールドワークⅡ

フィールドワークⅠをふまえて、商店街の情報発信に貢献できないかを考える。

⇒現在商店街がターゲットにしていない高校生を対象にした情報発信を行い、高校生が商店街に来るきっかけをつくりたい。

よって、まずは私が商店街について学ぶ。

#### 1. 南石堂町商店街ならではの良さ

「昔懐かしい人情味あふれる商店街」(南石堂町商店街振興組合事務局・宮下様)

商店街でしか感じられない人と人との繋がりなどを強みとし、商店街のアピールポイントを考案。

人気店や隠れた名店などを教えてもらいまとめる。

## 2. 告知方法について

高校生の私にもできる情報発信の方法についてアドバイスをもらう。

当初紙のパンフレットなどを視野に入れていたが、コスト面に問題があるため無料ホームページ作成アプリなどが適すると考えた。

## 3. プロジェクト発表会での商店街の告知

研究の発表の場として設けられたプロジェクト発表会(長野高校)での発表時に南石堂町商店街の紹介を取り入れた。宮下様からお聞きした情報をもとに、高校生に魅力を感じてもらえる店舗を選び、写真などとともに発表。何人かの生徒から印象に残ったと言ってもらえた。

## 4. 商店街紹介パンフレット作成

無料パンフレット作成アプリを使用し、商店街のオンライン広告を作成。高校生の目線から商店街のおすすめ店舗を紹介する。

**南石堂町商店街**  
昔懐かし 人情味あふれる商店街を歩いてみてはいかがですか？


**西沢餅屋**



駅前で人気の老舗。柔らかいお団子と季節の味のおやきはすべて自家製。売り切れ次第終了のためお買い求めはお早めに。

JR長野駅より徒歩5~6分  
長野駅（長野電鉄）から330m  
営業時間 8時30分~18時00分  
定休日 不定休

**そば八**



知る人ぞ知る駅前の隠れた名店。地下のおしゃれな店内でいただく、素材にこだわったお蕎麦の風味は最高。善光寺前のお蕎麦と食べ比べてみては？

JR長野駅より徒歩5分  
長野駅（長野電鉄）より312m  
営業時間 11時30分~15時00分  
18時00分~21時00分  
定休日 日曜日、祝日、不定休

**ボスコ**



市内イタリアンの先駆的存在。地元のものをより美味しく、という願いのもと、県産の食材にこだわったイタリア料理は絶品。

営業時間  
11時30分~15時00分 18時00分~22時00分  
(木、金、土) 18時00分~23時30分  
定休日 不定休

↑ 作成した紹介ページ (<https://minamisidou.jimdofree.com/>)

## 5 結論・展望 (Conclusions)

誰でも情報を受け取ることができる時代、だれでも情報発信ができるこの時代、特に若者同士の情報交換は非常に容易なものと考えられます。つまり、若者が商店街に魅力を感じるきっかけを作ることが課題解決の第一歩になると考えます。しかし商店街側では、ターゲットの年齢層に若者、とくに高校生を組み込む余裕はなく、情報発信には費用面で限界があることがわかりました。

そこで今回は、フィールドワークでお世話になった私が高校生と商店街の間を取り持つことを考えました。「高校生をターゲットにするには、高校生の協力が必要。」「商店街では大きな活動をするのは難しい。そのためいろんな人との地道なつながりを大切にしていきたい。」という宮下様のお言葉もあり、すこしでも商店街活性に協力するため、プロジェクト発表会の場を活かした商店街の告知や、パンフレットの作成などに携わり活動したことで、今後の人生にも役立つ貴重な経験をすることができました。

皆さんの地域、身近な商店街にも良い点、自慢できる点がきっとあると思います。新しく大きなことをするのは難しくても、今ある地域の特徴を最大限に活かし、アピールしていくことが、地域を活性化させるために大切な力になると思います。まず若い高校生の私たちが地域に興味を持ち、好きになり、地域のためにできることを考える。地道なつながり、小さな努力の積み重ねが地域を応援する。簡単なことのように難しいことです。しかし私は今回のフィールドワークと研究を通し、地域のつながりに携われたことで長野市がもっと好きになれました。活性化の一步にはほど遠いですが、商店街に少しだけ貢献もできました。この論文を読んだ誰かが、自分の地域に置き換えて活動をしてくれたなら、それは私が得た小さなつながりを誰かに託すことに成功したということです。ぜひ、自分の生まれ育った町について考えてみてください。

### この経験をもとにして

この経験は私にとって大変大きなことでした。研究を始めた頃は積極的になれない自分がありました。しかしながら、多くの方からお話を伺い、研究論文や新聞記事などで学んでいくにつれて多くの発見があり、私はいつの間にか研究に積極的になっていました。おそらくですが、知ることや考えることが「楽しい」と感じたのだと思います。フィールドワークでは、先生以外の大人たちと話す機会が多くありました。高校生にとって、先生以外の大人と家族以外で話す機会はそれほど多くなく、本当に良い経験をさせてもらいました。

また、私はこれまでに自分でここまでやり切れたことはなかったので、今は本当に充実感でいっぱいです。研究成果はもちろんですが、「何でもやってみることが大事」ということを経験できたことが、今後の私にとって一番ためになったことだと思います。この経験を活かすことが出来るよう、今後はたくさんのことにチャレンジしていければと考えています。いつかは地元である飯綱町で世代間をつなぐ役割を果たしながら、今ここにあるものの価値を十分に伝えられるような情報発信を中心とした地域活性が少しでも出来たらと思いま

す。

最後になりますが、私は教師になることを目指しています。今回、さまざまな地域に出ていくことで多くのコミュニケーション機会があり、多くの論文や書籍、新聞記事などを深く読み込むことで、一つの事象においても一面的ではなく多面的な関係性や捉え方が存在することがわかりました。そうした中、考え抜いた上で一つの実績を作れたことが充実感につながっています。将来一緒に学ぶことになる生徒たちにこうした経験を伝えていけたらと教師になりたいという目的意識がより明確になりました。

※本稿についてのデータ及び肩書等は執筆時の 2020 年 12 月現在のものです。

※表現及び言い回し等は執筆者の原稿を活かした形で掲載しています。

※本稿は、提出いただいた原稿をもとに南石堂町商店街振興組合「地域の論点」編纂事務局が 2021 年 2 月 24 日にインタビューした内容を追記したものです。